

基礎概念への志向を

(仙台) 矢木明夫

今年は大会にも出席できなかつたので、せめてその罪滅しにもと一筆させていただく。もつとも、奇縁をあげて罪は一層重くなるかもしない。私は村研の眞偽が多方面の研究者の結果あると考へてゐるので、そうした方向への前進をめざして、経済史専攻者としての意見を述べてみよう。

最近の歴史学研究上の大きな特色の一つは、共同体についての関心が著しく高まつてきたことである。一概的にみて、こうした傾向は從来になかつたことであり、以前は法制や経済に比して「社会構造」の研究の必要が、歴史学の中でも重要な地位を占めていなかつたといえよう。

しかし既に先資本主義社会の諸問題の考察において、共同体が絶度の邊にあれ、重要なものとして基礎に据えられなければならぬことはいうまでもない。そうした点では歴史研究上の立場がむしろ不思議であつたと考えられるかもしれない。ともかく今日の共同体への関心の増大は喜ばしいことである。

ところがまた一步その関心なるものの内容に立入ると、そう手ばなしで喜んでもいられない。というのは「村落構造」という題名の大な研究には、農民の土地所有規模別構成かせいせい葬祭關係などではないのである。つまり昔の「社会史」即ち、階級史乃至

をあげて罪は一層重くなるかもしない。私は村研の眞偽が多方面の研究者の結果あると考へてゐるので、そうした方向への前進をめざして、経済史専攻者としての意見を述べてみよう。

最近の歴史学研究上の大きな特色の一つは、共同体

についての関心が著しく高まつてきたことである。

一概的にみて、こうした傾向は從来に

なかつたことであり、以前は法制や経済に比

して「社会構造」の研究の必要が、歴史学の

中でも重要な地位を占めていなかつたといえよう。

しかし既に先資本主義社会の諸問題の考

察において、共同体が絶度の邊にあれ、重要

なものとして基礎に据えられなければなら

ぬことはいうまでもない。そうした点では歴

史研究上の立場がむしろ不思議であつたと

考えられるかもしれない。ともかく今日の共

同体への関心の増大は喜ばしいことである。

ところがまた一步その関心なるものの内

容に立入ると、そう手ばなしで喜んでもいられ

ない。というのは「村落構造」という題名の

大な研究には、農民の土地所有規模別構成

かせいせい葬祭關係などではないのである。

つまり昔の「社会史」即ち、階級史乃至

は民衆史、といつた事実をでていないのである。

いやこれでは階級の特殊性を明らかに

になる筈はない。私もふくめて、こうした張

りの特質を求めてあられる御意見を本誌前号

に反省し突破するために、共同体の基礎理

論がはじまつてゐる。こうした所から出発す

れば抽象的で、經濟外強制「論や封建主義の

基本法則も一層明白となる。

そうなつてくると、我々は何にもまして從

来等ら「社会構造」、少くも社会学的観念や

理論の探求に當つてこれら社会学者の方達

にこうした問題について御教示を乞いたいの

である。共同体とは、村落とは、家族とは、

いかなる基礎において成立しその本質や変化

の様相はどのようなものであるのか。こうし

た概念をもつて意識的に取上げて多くの調査

の調査に余りにもとうした基礎前提への配慮

が少いように見えるのは、個人のひが目なのか

とも考へてゐる。例えば我が國の農民運動の

問題にしても、それが農業経済学会などで取

上げられるのではなくして、村研でとりあげ

られる場合に「部落構造」という概念が経済

学者の報告したようなあの程度にとどめてお

いてよいものかどうか、こうした点について

社会学者の感想的な通論的、実験的観察

された一一批判こそが望ましいと思うのである。

案外隣接諸科学における「社会構造」輕視乃

至は無視の原因がこの辺にあつたのではないか

かとひねくれてもみたくなるのである。

は民衆史、といつた事実をでていないのである。

いやこれでは階級の特殊性を明らかに

になる筈はない。私もふくめて、こうした張

りの特質を求めてあられる御意見を本誌前号

に反省し突破するために、共同体の基礎理

論がはじまつてゐる。こうした所から出発す

れば抽象的で、經濟外強制「論や封建主義の

基本法則も一層明白となる。

そうなつてくると、我々は何にもまして從

来等ら「社会構造」、少くも社会学的観念や

理論の探求に當つてこれら社会学者の方達

にこうした問題について御教示を乞いたいの

である。共同体とは、村落とは、家族とは、

いかなる基礎において成立しその本質や変化

の様相はどのようなものであるのか。こうし

た概念をもつて意識的に取上げて多くの調査

の調査に余りにもとうした基礎前提への配慮

が少いように見えるのは、個人のひが目なのか

とも考へてゐる。例えば我が國の農民運動の

問題にしても、それが農業経済学会などで取

上げられるのではなくして、村研でとりあげ

られる場合に「部落構造」という概念が経済

学者の報告したようなあの程度にとどめてお

いてよいものかどうか、こうした点について

社会学者の感想的な通論的、実験的観察

された一一批判こそが望ましいと思うのである。

案外隣接諸科学における「社会構造」輕視乃

至は無視の原因がこの辺にあつたのではないか

かとひねくれてもみたくなるのである。